

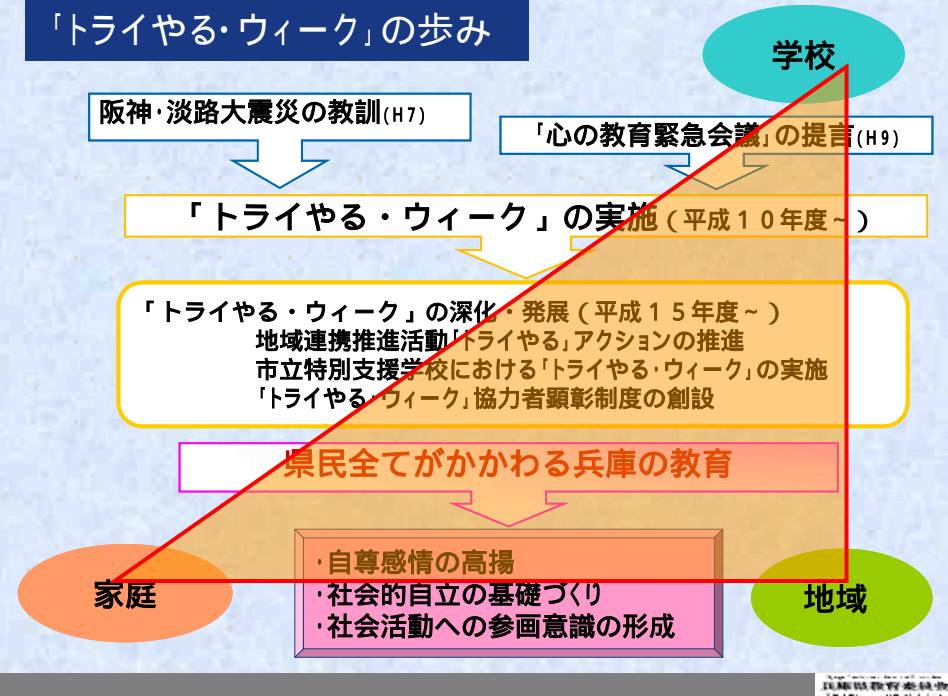
第3回キャリア教育推進連携シンポジウム



地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」

兵庫県教育委員会・県内市町組合教育委員会

「トライやる・ウィーク」の歩み



「トライやる・ウィーク」とは 1

ねらい: 地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を見つけることができるよう支援する

実施対象: 県内公立中学校、特別支援学校・中等教育学校2年生全員
 平成24年度実績: 366校 49,514名 15年間: 757,428名

実施時期: 6月または11月を中心とした1週間
 6月を中心に実施: 64.2% 11月を中心に実施: 35.8%

実施内容: 農林水産活動・職場体験活動
 文化・芸術創作体験活動
 ボランティア・福祉体験活動 等の社会体験活動

活動場所数: 平成24年度実績: 17,312ヶ所 (生徒2.9名に1ヶ所)
 15年間: のべ242,396ヶ所

指導ボランティア数: 平成24年度実績: 22,855名 (生徒2.2名につき1名)
 15年間: のべ322,865名

「トライやる・ウィーク」とは 2

推進体制

兵庫県「トライやる・ウィーク」推進協議会

知事、教育長の他、経営者協会
 漁業・農業・森林組合等受入協力
 51団体代表で構成(年1回開催)

市町「トライやる・ウィーク」推進協議会

教育長、連合PTA、校園長、教職員
 受入協力団体等で構成
 (年2回程度開催)

校区推進委員会

学校長、PTA、地域団体代表
 指導ボランティア代表等で構成
 (適宜開催)

教育課程上の位置付け: 特別活動

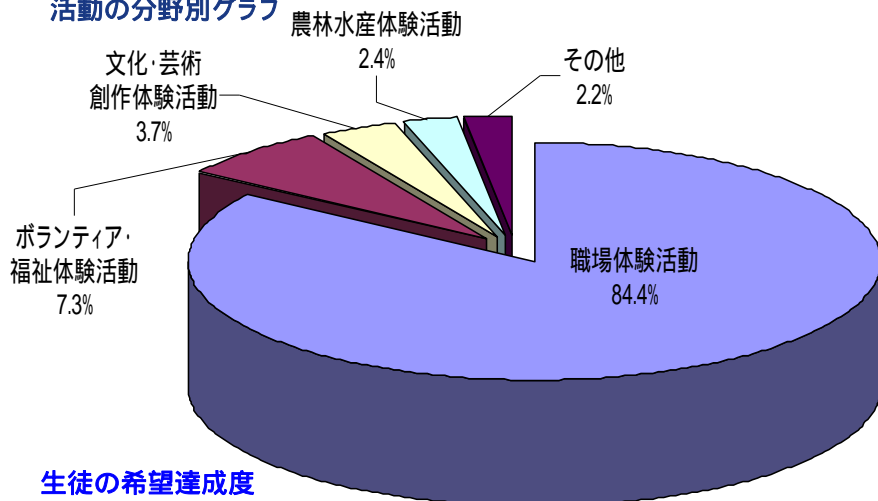
予算:
 必要経費の一部(1学級あたり150千円)を、県から推進事業交付金として交付している

保険制度:
 トライやる・ウィーク総合補償制度を設けている

実施形態:
 ・班単位で行い、班ごとに指導ボランティアが支援する
 ・自宅から活動場所へ通うことを原則とするため1週間学校には登校しない

平成24年度の実施状況 1

活動の分野別グラフ



生徒の希望達成度

第一希望が叶えられた生徒 70.0%

第二希望が叶えられた生徒 17.1%

平成24年度の実施状況 2

活動内容の一覧表

活動内容	平成24年度	平成23年度
幼児教育	20.8%	20.7%
販売	19.3%	19.2%
役所・消防署等	7.9%	8.4%
飲食店等	6.4%	6.6%
社会福祉施設	6.3%	6.5%
小学校・高校・大学	5.4%	5.0%
製造・建築	5.0%	4.7%
文化・芸術創作活動	3.7%	3.9%
スポーツ・体育施設等	3.7%	3.8%
病院等	3.6%	3.7%

平成24年度の実施状況 3

特別支援学校の活動状況

参加学校数：18校
(すべての市立特別支援学校)

参加生徒数：115名

指導ボランティア数：137名
介助補助員数：55名

活動内容

- ・平清盛ドラマ館での接客
- ・空港事業所での搭乗手続き
- ・ハーブの小物作り
- ・クッキー作り



すべての県立特別支援学校についても、「YU・らいふ・サポート」事業により、同様に社会体験活動を行っています

活動の様子(平成24・25年度)

職場体験活動



活動の様子(平成24・25年度)

文化・芸術創作体験活動



事前・事後指導の充実

事前指導



中学1年生から、自己の個性や適性を
知り、働くことの意義を学ぶ等の進路
学習と関連させながら指導している

電話のかけ方、あいさつ、名刺交換の
仕方等、活動時の心得や社会人として
のマナーを学び事前訪問を行う 等

事後指導

活動のまとめを作文集や報告書にし
お世話になった事業所に報告する

指導ボランティアや保護者を招いての
報告会の開催

中学3年生に向けて、志望する進路実現
のために、目的意識を高める進路学習に
つなげる 等

「トライやるアクション」について

ねらい:「トライやる・ウィーク」で培われた地域の教育力を活用し、地域のよさや
ふるさとの恵みにふれることができるよう、土日や長期休業中等を利用
して地域の行事等の企画運営に取り組む

実施対象:県内公立中学校・特別支援学校・中等教育学校生徒

平成24年度実績:208校(56.8%) 45,430名

(1年生:15,557名・2年生:16,903名・3年生:12,970名)

実施時期:土日(58.1%) 夏季休業中(39.3%)が中心

実施内容:・トライやる・ウィークの実施場所での再体験
・地域の伝統行事、夏祭りや運動会等の企画、運営補助
・敬老会、デイサービス施設訪問、配食サービス 等



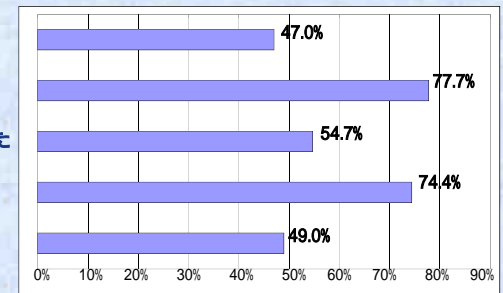
平成24年度アンケート結果より(生徒・保護者)

体験する中で、家庭での会話が
増えた
一週間は充実していた

自分の考えや行動に影響があった

機会があればまたやってみたい

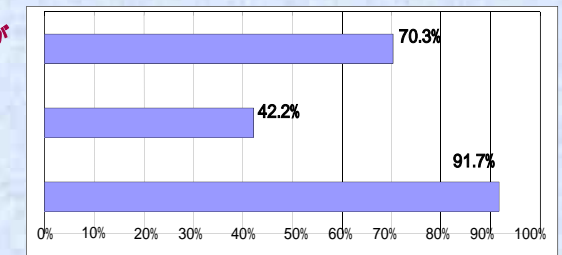
終わってからでも知り合った人たち
訪ねたい (生徒:47,619名)



体験する中でお子さんとの会話が
増えた

わが子への見方が変わった

機会があればまた参加させたい
(保護者:34,362名)



平成24年度アンケート結果より(指導ボランティア・教職員)

中学生の取組は意欲的だった

5日間で生徒に変化が見られた

中学生に対する見方が変わった

地域にとって有益な活動

学校と連携しながら実施できた

(指導ボランティア:12,430名)

一人一人を大切に実施した

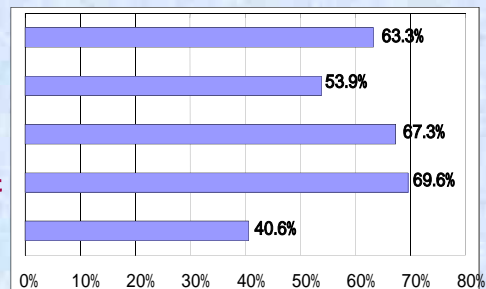
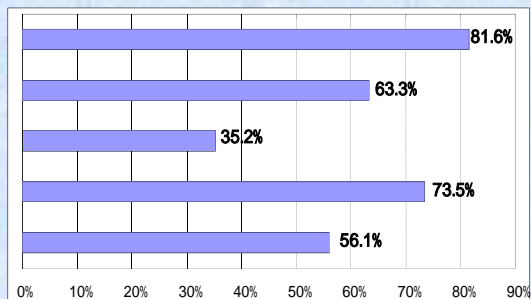
生徒たちの変化が見られた

学校と地域社会にとって有益な活動

生徒の新たな側面などの発見があった

教育活動を考える機会となった

(教職員:3,230名)



成果と課題

成果

・「トライやる・ウィーク」を支えているのが、学校・家庭・地域の連携システムである。子どもの教育を支援する営みを通して、地域に活気をもたらし、地域全体で子どもたちの育成に関わろうという機運を醸成したりするなど、地域コミュニティの構築にも寄与している。

・「トライやる」アクション等による中学生側から地域への働きかけや地域社会への参画が進んでいる。

・「トライやる・ウィーク評価検証委員会(平成20年3月)」における評価

・「トライやる・ウィーク」の各活動は、生徒一人一人の主体性を大切にされた内容となっていることが評価できる。キャリア形成を図る社会体験やボランティア体験、芸術文化体験など多様な体験活動が行われている。

・「兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会(平成23年3月)」における評価

課題

・長年の実施により定着しているが、学校によって取組の熱心さなどに温度差が生じたり、活動が行事化してしまい、子どもたち一人一人の希望に応じた受入先の確保が難しくなっている。

・「兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会(平成23年3月)」における評価



中学時代に、将来に夢や希望を抱いて自己の可能性を伸長させるために、学校・家庭・地域が連携して中学生を支援していきます